

令和 3 年 4 月 6 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K01744

研究課題名(和文) 組織メンバーの自己成長主導性メカニズムに関する実証研究

研究課題名(英文) A study on personal growth initiative

研究代表者

松尾 睦 (Matsuo, Makoto)

北海道大学・経済学研究院・教授

研究者番号：20268593

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、自己変革をうながす一連のスキルである自己成長主導性が、どのような要因によって決定され、また、どのような要因に影響を与えるかを明らかにすることにある。複数組織を対象とした質問紙調査データを分析した結果、自己成長主導性は、学習志向および目標明確性によって促進されていること、および、自己成長主導性はジョブ・クラフティング、心理的エンパワメント、アンラーニング、ワーク・エンゲージメントを高めることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自己変革スキルとしての自己成長主導性は、個人が環境に適応する上で欠かせない能力である。この概念は、主に、臨床心理学やカウンセリング心理学において検討されてきたが、組織的状况における研究は限られている。本研究は、組織的な文脈において、自己成長主導性の決定要因および結果要因を解明した点に学術的な意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate the antecedents and consequences of personal growth initiative, i.e., a set of self-change skills. Using a series of questionnaire surveys, the results of statistical analyses indicate that personal growth initiative was promoted by learning goal orientation and goal clarity, and that personal growth initiative enhanced job crafting, psychological empowerment, unlearning, and work engagement.

研究分野：経営組織論

キーワード：自己成長主導性 学習志向 目標明確性 ジョブクラフティング 心理的エンパワメント ワークエンゲージメント

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

自己成長主導性は、自己変革・自己改善のためのスキルであり、主にカウンセリング心理学やキャリア論の一部において研究されてきた(Robitschek et al.,2012; Shigemoto et al.,2017)。この概念は、組織メンバーの環境適応、学習、業績を向上させる上で重要な働きをされると考えられるが、組織行動論においては十分に研究されてこなかった。

2. 研究の目的

本研究課題「組織メンバーの自己成長主導性メカニズムに関する実証研究」は、組織で働くメンバーが持つ自己成長主導性(personal growth initiative)の先行要因・結果要因を明らかにすることを目的としている。そこで本研究は、自己成長主導性をチーム学習の枠組みの中に取り込み、その先行要因・結果要因を定量的に検討する。

3. 研究の方法

以下、3つの質問紙調査を実施した。

- (1)日本における某急性期病院看護部の看護師に対して時系列・質問紙調査を実施した(n=365)。
- (2)米国における多様な組織に勤務する従業員に対して時系列・質問紙調査を実施した(n=320)。
- (3)日本における6つの医療機関における医療従事者に対して時系列・質問紙調査を実施した(n=204)。

4. 研究成果

上記の質問紙調査データを統計的に分析した結果、以下のような結果が得られた。

(1)共分散構造分析の結果、自己成長主導性は、学習志向によって促進され、結果的に心理的エンパワメントを高めていた。なお、挑戦的仕事は自己成長性に影響を与えていなかった。

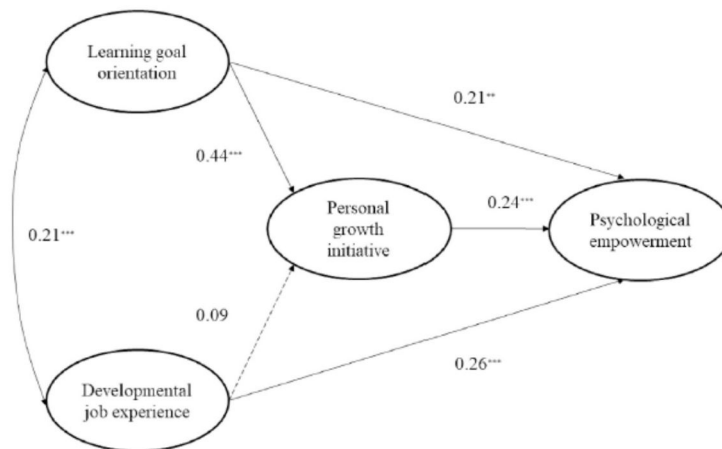


図1 分析結果1

(2)共分散構造分析の結果、自己成長主導性は、3タイプのジョブ・クラフティングを媒介して心理的エンパワメントを高めていた。

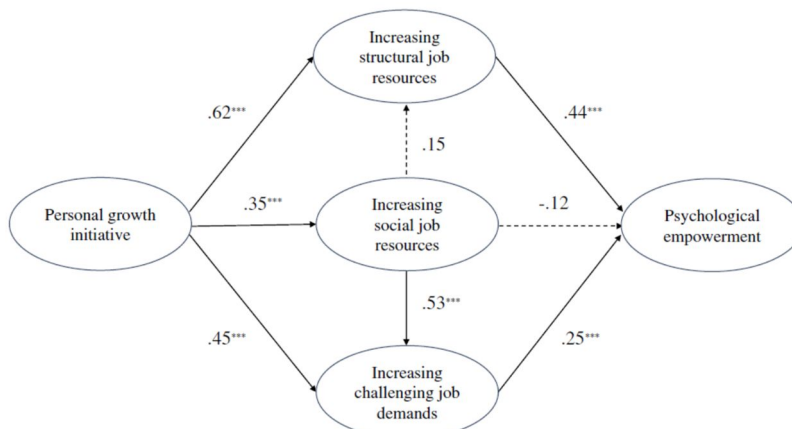


図2 分析結果2

(3)階層的重回帰分析の結果、自己成長主導性は、学習志向および目標明確性によって促進されていた。また、タスク多様性が高い場合には、目標明確性が自己成長主導性を高めるが、タスク複雑性が高い場合には、目標明確性が自己成長主導性を低めていた。

表1 分析結果3

	<i>DV = Personal growth initiative (PGI)</i>		
	<i>Model 1</i>	<i>Model 2</i>	<i>Model 3</i>
<i>Step 1: Control variables</i>			
Gender	-0.012	-0.107	-0.101
Age	0.036	0.029	0.049
Job type	0.157	0.087	0.084
<i>Step 2: Main effect terms</i>			
Autonomy		-0.083	-0.069
Job complexity		0.092	0.076
Skill variety		0.062	0.037
Goal clarity		0.239 ***	0.203 **
LGO		0.372 ***	0.360 ***
<i>Step3: Interaction terms</i>			
LGO × Autonomy			0.077
LGO × Job complexity			-0.085
LGO × Skill variety			-0.083
LGO × Goal clarity			0.032
Goal clarity × Autonomy			0.057
Goal clarity × Job complexity			-0.153
Goal clarity × Skill variety			0.177 *
$R^2$	0.029	0.255	0.304
$R^2$ ( <i>Adj</i> )	0.015	0.227	0.252
$\Delta R^2$		0.227	0.049
$\Delta F$		12.553 ***	1.984

Note: n = 215. Coefficients are standardized. Interaction terms are the products of mean-centered values. VIFs are below 1.818. \* p < 0.05; \*\* p < 0.01; \*\*\* p < 0.001.

<引用文献>

- Robitschek, C., Ashton, M. W., Spering, C. C., Geiger, N., Byers, D., Schotts, G. C., & Thoen, M. A. (2012). Development and psychometric evaluation of the personal growth initiative scale-II. *Journal of Counseling Psychology*, 59(2), 274–287.
- Shigemoto, Y., Low, B., Borowa, D., & Robitschek, C. (2017). Function of personal growth initiative on posttraumatic growth, posttraumatic stress, and depression over and above adaptive and maladaptive rumination. *Journal of Clinical Psychology*, 73(9), 1126–1145.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Matsuo, M.	4. 巻 30
2. 論文標題 Personal growth initiative as a predictor of psychological empowerment: The mediating role of job crafting. ,	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Human Resource Development Quarterly	6. 最初と最後の頁 343-360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hrdq.21347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuo, M.	4. 巻 115
2. 論文標題 Empowerment through self-improvement skills: The role of learning goals and personal growth initiative.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Vocational Behavior	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jvb.2019.05.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuo Makoto	4. 巻 25
2. 論文標題 Personal growth initiative as a predictor of psychological empowerment: The mediating role of job crafting	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Human Resource Development Quarterly	6. 最初と最後の頁 60-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hrdq.21347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------